

繁殖雌牛増頭通信

創刊号

(発行元) 畜産再興プラン実現推進本部繁殖雌牛増頭部会
 (農林水産省生産局畜産部畜産振興課繁殖雌牛増頭部会)
 〒100-8990 東京都千代田区豊が岡1丁目2番1号
 [直通]03(6744)2587 [FAX]03(3502)0887
http://www.maff.go.jp/j/chikusan/sinko/lin/j_katku/index.html

QUIZ

和牛とは、黒毛和種、褐毛和種、日本短角種、無角和種の四品種をいいますが、この中で最も飼養頭数が多いのは、どの品種でしょうか？

(答えは、最終ページ)

生産基盤の弱体化に危機感

農水省

畜産再興プラン実現本部を立ち上げ

今、和牛の繁殖雌牛の頭数が急激に減っていることは皆さんご存じですよ？

そのため、子牛価格は、急上昇し、肥育農家の方々は大変な思いをされている状況です。

雌牛の頭数の減少は、国際的な環境の変化や、離農や後継者不足などいろいろな原因によるものですが、このまま頭数の減少が続けば、これまで私たちの先輩が作り上げてきた「日本の宝」である和牛の基盤を支えることが難しくなります。

こんな状況に私たちは非常に危機感を持たなければいけません。農林水産省では、今年三月に「酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針」（いわゆる「酪肉近」）を定め、繁殖雌牛の増頭による繁殖基盤の安定は、今後十年間の重要な課題と位置づけています。さらには四月に「畜産再興プラン実現推進本部」を省内に立ち上げ、酪肉近の実現に向けた取組みを始めています。その中で、今後三年



「畜産再興プランブロック会合（関東）」で挨拶する原田畜産部長。

間で、特に取り組まなければいけない課題として、「繁殖雌牛の増頭」が一番に取り上げられています。

今こそ、国、地方、団体、生産者などの関係者が危機感を共有し、本当に力を合わせて、今の繁殖雌牛の減少傾向を反転させていかなければなりません。「日本の宝」である和牛の生産を安定させ、地域がこれからも元気に肉用牛生産に取り組んでいくためには、皆さん一人一人の行動が必要です。

繁殖雌牛増頭部会を設置 V字回復を目指す

農林水産省では、畜産再興プランの実現を推進するため、関東ブロックを皮切りに順次全国八ブロックで「第一回畜産再興プランブロック会合」を開催するなど、①繁殖雌牛増頭、②酪農生産基盤強化、③飼料

繁殖雌牛の現状は？

増産の緊急三課題への取組について、地方自治体、畜産関係団体、生産者団体など、幅広い関係者への周知を進めています。さらに、繁殖雌牛の増頭を強力に押し進めるために、「繁殖雌牛増頭部会」を設置しました。

冒頭に少し書かせていただきましたが、繁殖雌牛の頭数は、ここ数年で激減しています。年間約四％の減少と書くピン

○ 肉用牛の飼養頭数の推移

区分/年	22	23	24	25	26
飼養頭数(千頭)	2,892	2,763	2,723	2,642	2,567
前年比(%)	(▲1.1)	(▲4.5)	(▲1.4)	(▲3.0)	(▲2.8)
うち子取り用雌牛(千頭)	683.9	667.9	642.2	618.4	595.2
前年比(%)	(0.3)	(▲2.3)	(▲3.8)	(▲3.7)	(▲3.8)

資料：農林水産省「畜産統計」

とこないかもしれませんが、二十二年に六十八万三千頭いた雌牛は平成二十六年では、六十万頭を割り込んでしまい、五十万五千頭までに減ってしまっています。四年間でなんと九万頭の減少です！これはやはり本心に心配な状況だと思えます。

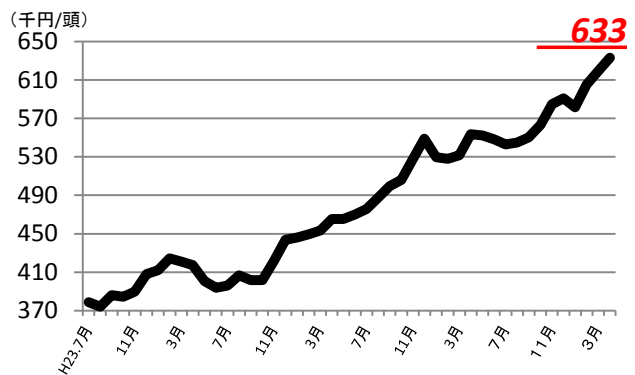
心配われる日本の宝「和牛」の基盤

繁殖雌牛の減少がもたらすもの

今、一番困っているのは、肥育農家の方ですよね。

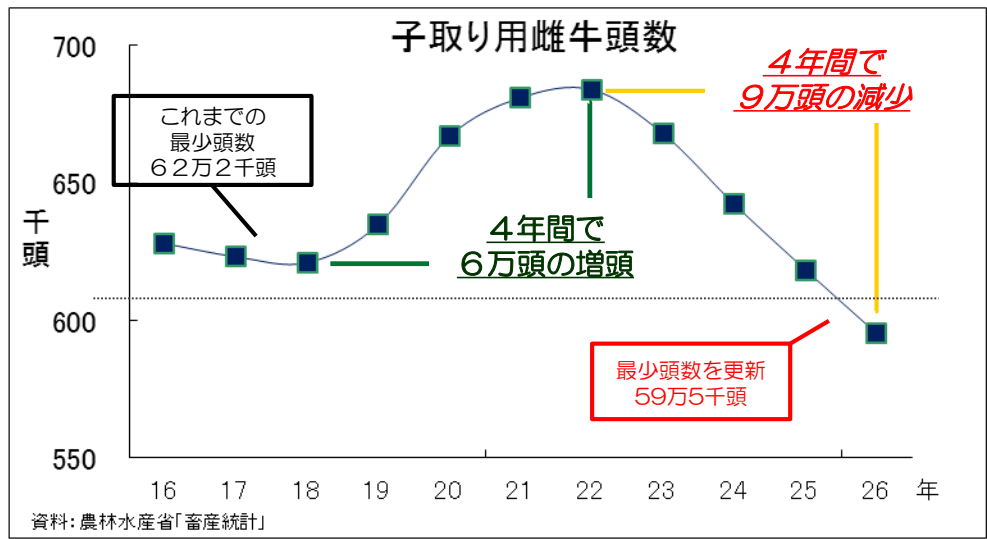
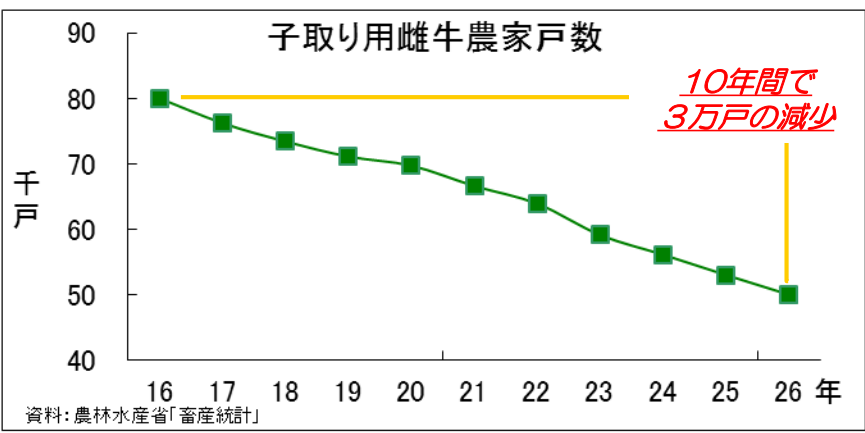
平成二十二年の黒毛和種の子牛価格（平均）は、三十九万円でしたが、一番最近の子牛価格は、六十三万三千円（（独）農畜産業振興機構調べ…平成二十七年四月の全国平均）になっています。これだけ子牛価格が上がってしまつと、それを肥育する肥育農家の方は、本当に厳しい状況になってしまいます。

○子牛価格の推移（黒毛和種）



データ：（独）農畜産業振興機構（4月は速報値）

それに輪をかけて心配しているのは、人手不足の心配です。これは肉用牛だけでなく、酪農あるいは農業全般に言えることです。特に繁殖農家は、一頭から数頭を飼われている、あるいは飼われていた方々も多く、高齢化や離農などでこれらの方が経営をやめられてしまつと頭数を回復させることが難しくなってきました。この傾向が今後も続くとして、これまでそれぞれの地域の諸先輩方が一生懸命作り上げてきた日本の宝である「和牛」が減少し、地域の「元氣」もなくなってしまうことがとても心配されています。



一言もの「モ」す。

日本経済と一緒に繁殖基盤もモ一回復!

愛称
「まごしん」

「繁殖雌牛増頭通信」の役割

ちなみに、今を除いて、平成になってから繁殖雌牛の頭数が一番少なかったのは、平成十八年の六十二万三千頭なのですが、この時は、全国の関係者が一丸となって増頭運動を展開した結果、それまで十年以上にわたって続いていた繁殖雌牛の減少傾向を食い止めただけでなく、平成二十二年には、六十八万四千頭まで頭数は増加しました。しかし今は、五十九万五千頭まで減っています。今こそ、もう一度関係者みんなが頑張って増頭に向けた運動を展開する時ではないでしょうか。そこで、農林水産省としては、一面で書かせてもらったように畜産再興プラン実現推進本部に繁殖雌牛増頭部会を設置し、現状の減少傾向に歯止めをかけるだけでなく、少なくとも今後三年間で年間三千頭程度は繁殖雌牛の頭数を増加させるよう、関係者一丸となって取り組んでいきたいと考えています。そのため、今後、「繁殖雌牛増頭通信」を定期的に発行し、今後三年間、増頭に取り組み皆さんの参考となるような地域の増頭に向けた取組事例や、子牛の生産技術向上に向けたヒントとなるような技術情報の発信、時にはこれから使える補助事業の紹介などを行い、これからの増頭の一助となるように頑張っていきたいと思います。

CBSで繁殖基盤を強化

地域で増頭を支えよう！

繁殖雌牛増頭通信では、今後、地域で雌牛の増頭に取組まれている事例や、増頭に効果のある技術の紹介などを、皆さんの協力も頂きながら、紙面で取り上げていき、地域での今後の取組みの参考にしてもらいたいと考えています。

創刊号では、「酪肉近代化基本方針」の紹介パンフレットや各種の雑誌などでも多く取り上げられているものですが、

長崎県吉岐市の子牛育成共同施設（キャトル・ステーション）、繁殖支援施設（キャトル・フリーディング・ステーション）により、JA吉岐市が中心となって島の肉用牛生産を支えている取組組みをご紹介します。と思います。

平成十二年の第一キャトル・ステーションの増設から始まり、順次、システムを広げられてきたものですが、キャトル・ステーションは、農家で生まれた子牛を生後四〜五カ月齢程度から子牛市場出荷まで給餌に始まる全ての管理を行うものです。キャトル・ステーションは、農家の管理努力の軽減だけでなく、飼養管理の統一によって出荷体重などを揃えることによる市場評価

を高め、子牛価格を安定させる効果などがあるとのこと。です。

また、生後三〜七日齢の子牛から預託を行う哺乳施設を作られた後、平成十九年からは、繁殖支援施設の建設が開始され、母牛を分娩後から預かり、子牛は哺育部門で預託しながら、母牛は人工授精し、妊娠確認後農家に返すという母子委託業務や、繁殖障害の雌牛を預かり、治療後受精させるリハビリ業務、農家の方が病気になるまで時に雌牛を預かる一時預り業務、雌子牛を育成後、受胎させて農家へ返す繁殖育成業務などを拡充され、哺育育成部門と一体化して、生産性を向上させながら、地域全体の繁殖農家の飼養管理を支えるシステムが作り上げられてきました。

CBS・CSの取組内容(JA吉岐市)

繁殖支援部門

- 母子委託
母牛が分娩後、母子共に受託します。
- 繁殖育成
導入子牛や自家保留の雌子牛を受託します。
- リハビリ
繁殖障害牛を受託します。栄養状態の改善や運動により治療を試み、授精・妊娠鑑定後、農家へ返します。
- 一時預かり
繁殖農家が疾病や傷病等で一時的に飼養管理が困難な場合に、繁殖雌牛を預かり、和牛繁殖経営の継続を支援します。

哺育・育成部門

- 哺育
母子委託により受託した子牛を約4ヶ月齢までは乳育成します。
- 子牛育成
哺育部門で哺乳育成した子牛を受託し、育成して家畜市場に出荷します。

ちょっと一工夫

「繁殖雌牛増頭通信」は、和牛を飼っている方や、これから飼ってみようと思っている方々に知っていただきたい情報を満載にする予定です。

各種会合やイベントでの配布だけでなく、例えば「配合飼料の配達時に農家に配布」や「〇〇システムで組合員にE-mailで情報提供」など、ちょっと一工夫した事例があったら、教えてください！

また、加えて、将来を担う後継者が、指導を受けながら研修をできるように繁殖研修センターが設置され、新規就農者確保に向けた取り組みも併せて進められています。

吉岐市においても、近年は頭数がわずかに減少傾向にあります。キャトルセンターの設置以降、これらの様々な取り組みにより一定の生産基盤が保たれています。

この事例は約十五年にわたる関係者各位のご努力により地域全体で作り上げられたサポートシステムでありますので、一朝一夕にどこの地域でも取り組めるものではありませんが、高齢化や担い手の減少による繁殖基盤の縮小は、全国共通の課題であり、各地域での議論の参考にして頂ける事例だと思えます。

編集後記

いきなりの「ぞうしん」の発行で、読者の方々も戸惑われているかもしれませ

ただ、これだけの急激な繁殖雌牛基盤の減少を目的の当りにすると、農林水産省もいってもたつてもいられなくなっている状況だというのはわかっていただけたのではないかと思います。

創刊号では、事例や皆さんのお声などはほとんどお届けすることはできませんでしたが、これから、ブロック会議なども行われますので、編集部としても色々な地域の情報を集めて、次号からは、増頭に取り組む皆様のお役に立つような情報を発信していきたいと考えています。また、積極的な情報提供もお待ちしております。

さらに、繁殖技術の改善も、増頭のためには重要と考えておりますので、秋を目途にシンポジウムの開催なども検討しており、また、新たな技術の取組みなどもご紹介していきたいと考えております。

頭数のV字回復に役立つ「ぞうしん」が発行できるよう頑張っていきます！

(畜産振興課 畜産技術室 菅谷)

【クイズの解答】

正解は、黒毛和種で百六十六万三千頭が飼養されています。
ちなみに、褐毛和種は二万一千頭、日本短角種は八千頭、無角和種は二百頭が飼養されています。

繁殖雌牛の増頭に関するお問い合わせ先

所属	連絡先	所属	連絡先
北海道農政事務所 農政推進課	011-642-5461(代表) 011-642-5410(直通)	近畿農政局畜産課 (滋賀県、京都府、大阪府、 兵庫県、奈良県、和歌山県)	075-451-9161(代表) 075-414-9022(直通)
東北農政局畜産課 (青森県、岩手県、宮城県、 秋田県、山形県、福島県)	022-263-1111(代表) 022-221-6198(直通)	中国四国農政局畜産課 (鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口 県、徳島県、香川県、愛媛県、高知県)	086-224-4511(代表) 086-224-9412(直通)
関東農政局畜産課 (茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、 千葉県、東京都、神奈川県、山梨 県、長野県、静岡県)	048-600-0600(代表) 048-740-0028(直通)	九州農政局畜産課 (福岡県、佐賀県、長崎県、熊本 県、大分県、宮崎県、鹿児島県)	096-211-9111(代表) 096-211-9477(直通)
北陸農政局畜産課 (新潟県、富山県、石川県、 福井県)	076-263-2161(代表) 076-232-4317(直通)	沖縄総合事務局 生産振興課畜産振興室	098-866-0031(代表) 098-866-1653(直通)
東海農政局畜産課 (岐阜県、愛知県、三重県)	052-201-7271(代表) 052-223-4625(直通)	農林水産省生産局 畜産部畜産振興課	03-3502-8111(代表) 03-6744-2587(直通)